



ミレニアル世代向け データリテラシーガイド

これほどまで大きくかつ急速に変化している時代はかつてなく、テクノロジーと膨大な量のデータによって、新たな機会に加え、まだ名前さえない職業が生まれています。

新しい職種が押し並べて増えているのはもちろん、急速な技術の変化とデータの増加により、そう遠くはない将来、新しい仕事も爆発的に増えるでしょう。

ですが、この目まぐるしく変化する仕事の世界で、最前線に立っている1つの世代があります。"終身雇用"世代と"ギグエコノミー"と格闘する世代との懸け橋となる1つのグループが、ミレニアル世代です。まさに、皆さんのことです。

将来の仕事の世界は、皆さんのような個人が、データリテラシーのスキルを身につけなければならない、という必要性に突き動かされていくと、私たちは考えています。スキルを持っていることが好ましい、というよりも、必須になってくるのです。仕事の世界において競争激化の波が押し寄せる中、組織に対するあなたの個人的価値を高めるものは何でしょうか。一步抜きん出て、自分のキャリア目標を達成するには、どうすればよいのでしょうか。

その答えは、データリテラシーにあると考えています。データおよびテクノロジー業界では、この言葉に対する関心が高まっており、話題を呼んでいます。組織や企業がデータ管理の効率化とデータの有効利用を進めようとしたときにぶつかるのが、従業員のデータリテラシースキル不足、という大きな壁です。

では、データリテラシーとは一体何でしょうか。データリテラシーは、データを読み、使い、分析し、解釈する能力として定義できます。世界中のデータリテラシーの状況を把握するために実施された大規模な調査*によると、自分がデータリテラシーを備えていると自信を持って言えるビジネス意思決定者は、わずか24%にとどまっています。

より身近なところで、16～24歳の調査対象者に目を向けると、自分がデータリテラシーを備えていると考えているのはわずか21%です。

16～24歳に目を向けると自分がデータリテラシーを備えていると考えているのはわずか21%です

スキル不足の問題が、対処されないまま残っているのは明らかです。これに対して何の対策も講じない組織はこの先遅れを取るでしょう。そして、このウィークポイントを認識している組織は、この部分を長期的に改善していくために、データリテラシーの取り組みを受け入れ、実践に移しています。

このような驚くべき数字は、状況を悲観的、もっと言えば絶望的に捉えているように見えるかもしれませんが、しかし、実際のところ、チャンスは間違いなく存在します。データリテラシースキルを身につけて、仕事に活用していけば、特に今私たちが身を置くデジタル世界が急速に変化する中で自信を持つことができます。

*Qlik - 企業内でデータリテラシーを推進する方法

分かり過ぎるぐらい分かっているとは思いますが、皆さんの世代は今、デジタル世界を生き抜いています。そしてその世界では、ほとんどの人がスマートフォン、タブレットなどのコネクテッドデバイスに非常に依存しています。皆さんの世代は、生まれてから今までの間に、インターネットの出現、AI、IoTなどのテクノロジーの爆発的な増加を経験してきました。

特にこの年代の人たちが長年にわたって無意識に身に付けてきたスキルを活用して、データリテラシーのスキルとパワーを組み合わせると、一体何が起こるのでしょうか。想像してみてください。

"データリテラシー"という言葉を知ると、データサイエンティストになる必要があると思いますか。答えは"いいえ"です。誰もがデータサイエンティストになる必要はありません。ですが、今持っているスキルを使って、データ、コミュニケーター、分析などを活用すれば、ストーリーテラーになることができます。

... 誰もがデータサイエンティストになる必要はありません

データリテラシースキルを自由に操り、キャリアを追求するのに相応しいのは、まさに皆さんです。そして、その必要性を今分かっている人こそが、先手を打ち、有利に事を運べるのです。

このスキルを身に付ける、または今のスキルをさらに伸ばすには

まずは、簡単な自己評価テストを受けてください。これによりご自身のデータペルソナが分かります。ここから、データリテラシーへの旅を続け、TheDataLiteracyProject.org サイトで提供されているさまざまなコンテンツとつながりを利用して、データリテラシースキルを学ぶことができます。

最初の一步を踏み出しましょう。データリテラシー保持者として自分自身を売り込み、自信を持ってデータ主導型意思決定を行えるようにしてください。そうすれば、これからの仕事の世界で革新的な優位性を獲得できます。

